

大学出版

No.

2006.12

70 冬

大学と社会を結ぶ知のネットワーク

特集

大学・メディア・出版

知の現場から

【インタビュー】アメリカと日本、知のかたち

——シカゴ大学図書館・奥泉栄三郎さんに聞く——2

書評は語る——新聞の現場から * 鵜飼 哲夫 ——10

大学アーカイヴズと学術コミュニケーション

——京都大学大学文書館から考える * 西山 伸 ——14

大学との連携協力の在り方について

——大阪大学出版会の試み * 岩谷 美也子 ——18

● 連載

ぎょう
行の建築 —— 滋賀県日吉大社八王子・三宮神社 * 松崎 照明 —— 表2

歩く・見る・聞く
知のネットワーク 42 京都大学総合博物館 —— 20

大学出版部ニュース —— 22

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

有限責任中間法人大学出版部協会



ぎょう 行の建築

——滋賀県日吉大社八王子・三宮神社——

松崎照明

(建築意匠)

東の山王恐ろしや 二宮 客人の行事の高御子
十禪師 山長 石動の三宮 峰には 八王子ぞ恐ろしき

院政期に編まれた『梁塵秘抄』四句神歌の一つである。

山王とは比叡山の東、琵琶湖側にある日吉大社（山王権現）をさし、二宮、客人、大宮、十禪師などの七社あるいは二十一社のことをいった。その社は、秀麗な姿の神体山・八王子山を中心に構成され、山頂付近の巨岩・金大巖に、三宮と八王子の建物が建っている。

『平家物語』には、嘉保二年（一〇九五）、叡山の呪詛によって、八王子権現の神矢に倒れた関白・藤原師通を助けるため、母が卑しい者に身をやつし、八王子の社殿に七日七夜参籠して、やっと三年の延命を許されたとある。

この八王子（牛尾）の社殿と三宮の建物は、両殿とも金大巖に接して建てられ、建物全体が宙に浮くかのように、崖の上に並び立つ。山王は、山岳で厳しい修行をし、神仏の験を得る修験者の行場（聖の住所）でもあったが、院政期には、人々の信仰が石山、長谷寺などの奈良時代以来の観音霊場（霊験仏）から、各地へ広がった霊験所とそこで修行する修験者へと移る。そして、この時期の建物は、切り立った断崖絶壁や滝裏に、霊験所の力や行者の験力を象徴するかのような、特



向かって右奥が八王子の社殿、本殿拝殿とともに文禄4年(1595)の再建。左が三宮神社、慶長4年(1599)再建。



八王子の社殿と三宮神社の奥にそびえる金大巖。

異な懸造りの形で建てられるようになるのである。

山岳信仰の画期はこの院政期と先の撰関期にあるが、日吉大社の建築には撰関期の延暦寺僧・相応（八三一〜九一八）が深く関わっている。相応は日吉の社殿を再興し、延暦寺の寺塔だけではなく、神社、霊石、霊水など、比叡山中の多くの霊地を礼拝行道する、千日回峰行を始めたとも言われる。

この千日回峰行は、現在まで続けられる山岳修行の中で最も過酷な行で、始めの七百日は山上山下を毎日約三十キロ歩き、その後、不眠不臥断食で一滴の水も飲まず、壮絶な九日間の堂入行を行う。残りの三百日の内、百日には、京市街と山を一日八十四キロ歩く京都大廻りが待っている。

午前一時、比叡山無動寺から、回峰にむかう行者の後ろを、漆黒の闇に吸い込まれるように出発すると、根本中堂をへて西塔の中堂、横川中堂と、蛇を踏むような山道を進み、夜明けの雲を抜けて金大巖を拝し、麓の日吉大社、坂本へと下る。そこから峰道の中で最も急峻な無動寺坂の登りの約三キロを一気に駆け上がり、六時間を要する一日の行が終わる。

白の浄衣に、蓮の葉形の檜笠を着けた山を懸ける行者の姿は、一切の無駄が無い、研ぎ澄ました刃のように美しく、千日を積み重ねた所作と真言の力は従うものの胸を揺るがす。

特集

大学・メディア・出版

— 知の現場から

アメリカと日本、知のかたち

——シカゴ大学図書館・奥泉栄三郎さんに聞く

【解説】

奥泉栄三郎氏は、一九四〇年群馬県に生まれ、慶応義塾大学を卒業後、同大学図書館、メリーランド大学図書館（アメリカ合衆国、ワシントン首都圏）を経て、

八四年よりシカゴ大学レーゲンシュタイン図書館東アジア研究図書館に勤務する、日本研究部門の主任司書である。二〇〇四年には、第一線で活躍されてきたことが評価され、プロゴルファーの青木功氏や宇宙飛行士の毛利衛氏などと並んで「日米交流一五〇周年記念外務大臣表彰」を受賞している。また、司書としての仕事と並行して御自身でも研究や本の監修に携わっている。日本語で読めるものとしては、インタビューのなかでも出てくる『初期在北米日本人の記録』監修のほか、論文として『トラ・トラ・トラ』の行方とその周辺——歴史家ゴードン・W・ブランドの叙述手法』（日本出版学会編『出版研究』三〇号／一九九九）、『資料解題 占領下教育関係雑誌目録総覧・解題（1～16）』（明星大学戦後教育史研

究センター編『戦後教育史研究』一号／一九八四～九号／二〇〇五（継続執筆中））などがある。明星大学や法政大学の客員研究員でもある。

言うまでもなく、大学図書館は研究・教育を支える最大のインフラのひとつであり、私たち大学出版部の刊行物が一堂に収蔵された、知の宝庫である。その図書館、しかも日本とは異なるアメリカの図書館で長く日本の学術書に接してきた奥泉氏に、日米の図書館や学術出版について縦横に語っていただいた。奥泉氏が語るアメリカの大学や大学出版部の姿は、氏の所属大学を反映して全米トップ・クラスの状況に傾きがちであるかもしれない。山本俊明氏（聖学院大学出版会）が指摘するように、苦境に陥り売却を余儀なくされる大学出版部もあらわれはじめているのである（アメリカ大学出版部の現況『大学出版』五〇号）。

しかしながら、日米の事情に通じた専門家の目に映る

日本の諸相は、私たちに示唆するところも大きいと思う。ここに掲載した記事はインタビューの要約版に過ぎない

シカゴ大学とは？

シカゴ大学は緑が多く、広大なキャンパスはゆつたりとしていて、良いところですね。

日本にも大きなキャンパスを誇る大学がいくつかありますが、シカゴ大学の大きさはそれらを上回るでしょう。趣のある建物もあり、日本人観光客も訪れています。一〇〇余年前のシカゴ万博の跡地です。

——大学の特徴は何でしょうか？

経済学を中心としてノーベル賞学者を数多く輩出していることで有名ですが、大学院以上の教育や研究活動に重点を置いた、典型的な私立の大学院大学と言えらると思います。四千名の学部学生に対し院生九千名の構成で、多くが博士課程に進みます。ちなみに、講義は一学期一〇週間程のあいだに二〇冊前後の文献を読み込み、最後にレポートの提出を求めるなど、ハードな内容ですので、学生は学期中は勉強漬けです。私の子供二人もここを卒業しています。結構、絞られたらしいですよ。

が、読者の皆様の参考になれば幸いです。

（聞き手・構成 東京大学出版会・山田秀樹）

——奥泉さんは、海外の図書館に長いあいだ勤務するという、日本人として珍しいキャリアを築いてこられたのですが、どのような経緯でシカゴ大学に着任されたのでしょうか？

私は大学時代、当時としては珍しい「図書館学科」というところで学びました。これは第二次大戦後、GHQ（占領軍）の政策により出来たものです。アメリカ並みの充実した図書館への整備と人材養成が、新生日本の発展につながると考えたのでしよう。GHQは、図書館学科の開設先として東京大学などにも打診しようですが、紆余曲折を経て、最終的に慶応義塾大学が受け皿となりました。当初は、先進諸外国向けに明示するため、日本図書館学校（Japan Library School）という呼称も使用されておりました。

大学卒業後、そのまま慶応の図書館で働いておりましたが、一年間の予定でメリーランド大学図書館に派遣されました。当初は、派遣研修期間終了後、慶応に戻る予定だったのですが、そのままメリーランド大学に残り、結局一〇年いました。その後シカゴ大学に移り、いまに至っております。

シカゴ大学図書館について

——そのシカゴ大学図書館ですが、非常に大きな、要塞のような建物ですね。シカゴ大学図書館、とりわけ奥泉さんがいらつしやるレーゲンシュタイン図書館 (Joseph Regenstein Library) とは、どのような図書館なのでしょいか？

ここレーゲンシュタイン図書館は、シカゴ大学の、いわゆる本館図書館にあたります。鉄道事業で成功した富豪レーゲンシュタイン家の寄付と国の援助をもとに、一九六八年に新築・竣工されました。地上五階・地下二階の巨大な建物のなかに、現在六五〇万冊ぐらゐの蔵書がございます。

——シカゴ大学図書館の特徴は何でしょうか？

シカゴ大学には、レーゲンシュタイン図書館のほかにもいくつか図書館がありますが、ほかの大学ほど図書館がいくつにも分かれておりません。人文・社会科学系の本は主にレーゲンシュタイン図書館に集中しております。これは、いくつかの図書館に分散させてしまうことから生じる非効率を防ぐためです。本館に集中させることで、利用者はひとつの図書館で多くの本を手にすることができますし、運営も効率よくできます。

また、得てして図書館は、蔵書が増えていきますと、キ

ャパシティーの問題から古い本を倉庫に詰め込んでしまうこともあるのですが、シカゴではそのようにはしておりません。と申しますのも、倉庫に本を詰め込み、必要に応じて取り寄せるというやり方では、書棚を自由に廻るなかから生まれる、本との偶然の、新しい出会いという貴重な機会が失われてしまうからです。基本的には、蔵書はすべて開架です。利用者には、図書館内を自由に探索してもらうことで、いつでも、どこにでも本の森に分け入っていたただくようにしておりますし、新しい本との出会いをしていただくよう図っているつもりです。

——羨ましいですね。私が利用する東大の本館図書館は、開架はごくわずかです。

ただ、このような方針をとっておりますので、シカゴ大学と云えどもキャパシティーの問題が出てまいりました。現在のスペースでは、近い将来満杯になってしまふのです。そこで、今年の秋から図書館の増築工事が始まります。二〇〇九年には新しい姿として披露できるでしょう。単一屋根の図書館棟としては世界でも最大級になる予定で、最新のコンピューターによる出納技術などが導入されます。

ところで、調査研究を深めるためには揃えておきたいのですが、頻繁に利用されるわけではなく、何より多額の購入資金が必要ゆえ頭を悩ませるものに、「大型・高額資料」



シカゴ大学レーゲンシュタイン図書館

があります。そこで、北米の主要諸大学でお金を出し合っ
て、共通の会員財産として大型資料のセットなどを購入し、
保管・利用しようという動きが出てまいりました。この制
度は比較的長い歴史をもっています。幸い、シカゴ大学が
その拠点に選ばれまして、キャンパス内に専用のビルを建
て、購入した大型資料はそこで保管し、資金を抛出したす
べての大学が利用できるようにしております。それが、研
究図書館センター (Center for Research Libraries) と呼ば
れている施設です。そこには、例えば『朝日新聞』や『ジ
ヤパン・タイムズ』などの創刊以来の号が、マイ
クロフィルム版として

保存されています。そ
のあたりも、日本の大
学図書館には見られな
い特徴的なメカニズム
でしょうか。

日本研究部門の司書と
して

——奥泉さんが所属
する東アジア研究図
書館 (East Asian Li-
brary) は、名前から
窺いますと東アジア

関係の文献を集める部署かと思いますが、ここにはど
のくらいの和書があるのでしょうか？

和書だけということになりますと、およそ二二万冊です。
量としては、何とかアメリカのトップ・クラスに入るぐら
いだと思います。

——具体的には、司書としてどのようなお仕事をなされ
ているのでしょうか？

日本研究部門の主任司書として、日本研究に資すると思
われる文献を選定・購入し、その管理・運用業務をしてお
ります。また、日本研究専攻の博士課程学生などの論文執
筆指導や助言などもしております。あとは、レファレンス・
サービスといわれるものですね。

——海外にいらつしゃると、日本の本の情報があまり入
ってこないようにも思うのですが、どのようにして情報
を収集されているのでしょうか？

紀伊国屋書店・丸善・日本出版貿易などが定期的に日本
の最新情報を流してくれますし、例えば東京大学出版会の
『UP』や丸善の『学燈』など各種PR紙誌も毎月送られ
てきますので、それらを見て日本の出版動向をフォローし

ております。また、日本に詳しいシカゴ大学の教授陣とも情報交換しております。ノーマ・フィールドさんなどは、いつも日本内外の最新の研究動向を的確に教えてくれます。

最近では、卒業して日本に帰った先生などからも、最新の情報をもらっています。ファックスやメールを使っていますから、速いですね。毎年、日本へ集書旅行にも出向いています。

ただし、問題は、これらの情報をどのように利用するかということです。収集した多くの情報のなかから、日本研究にとつて、シカゴ大学にとつて、有益と思われるものを選択し、図書の購入をしていかななくてはなりません。この、評価・判断の作業は非常に大事ですし、同時にとても難しいことです。

——奥泉さんは、司書としてのお仕事のほかに、御自身も研究・執筆を進めていらっしゃいますね。

私自身いくつか調べものをして、その成果を纏めております。日本語で読むことができるのは、大きなものとして、ひとつは在米日本人の生活・交流などの記録の集成・監修があります。『初期在北米日本人の記録』(北米編二五巻・ハワイ編九巻、文生書院刊)として第一期の刊行が終了いたしました。現在、第二期がスタートしています。軽く

一〇〇冊を超えるシリーズになるでしょう。ふたつめは、戦後占領期の日本で発行された出版物を網羅的に収集した「プランゲ文庫」の紹介・分析です。研究成果は、各種専門誌に発表しております。そのほかに、浅田栄次についても調べております。

——「浅田栄次」とは聞きなれない名前ですが、どのような方なのでしょうか？

若い方は御存知ないかもしれませんが、シカゴ大学開学以来の博士号取得第一号(一八九三年)は、浅田栄次という、旧約聖書学や言語学(ヘブライ語など)を学んだ明治の日本人留学生でした。いまでも、毎年の「シカゴ大学カレンダー」には、六月二六日は浅田が博士号を取得した日として記されており。浅田は帰国後、東京外国語学校(現在の東京外国語大学)開校に尽力し、自身も英語の教鞭をとるなど日本の英語教育を切り拓いた先駆者なのです。彼に関する多くの資料を、御遺族からの御提供もあり預かっておりますので、それらを分析しながら彼の生涯とその時代を追いかけていくところです。

日本の図書館、アメリカの図書館

——日本の大学図書館を、どのように御覧なられていますか？



奥泉栄三郎さん（図書館執務室にて）

文化が違いますので比較は難しいのですが、第一に日本の大学図書館は、司書制度がはっきり確立していないように思います。例えば日本では、図書館に勤務していた方が、数年後、人事異動などで大学の別の部局、たとえば学生課などに移っていた、ということがよく見られます。図書館の建物は立派になっていきますが、その中で働いている人は、請求された文献を書庫から運ぶだけの人になってしまったりで、図書館の機能を活用させるような人材が育ちにくいと思います。第二に、大学当局や関係個人に意欲が足りないと。

——アメリカの大学図書館は違うのですか？

アメリカでは、「ライブラリアン (Librarian)」として専門職になっております。少なくとも私たちは、ひとつ文献の問い合わせがあると、それに関連する文献につい

て紹介したり、補足説明したりします。学歴もさることながら、彼らには、やる気・職業倫理、創意工夫、それにサービス精神があるのではないでしょうか。

——学生への指導とともに、図書館の積極的活用・活性化の推進役になっているのですか。

そういうことです。これは私が考えていることに過ぎませんが、将来研究者になろうとする人は、例えば数年間、図書館協力員（仮称）として、本や資料の調べ方を学んでみてはどうだろうかと思います。「図書館協力員」になりますと、専門外の分野にも否応なく接しなくてはなりません。そうして広く様々な分野に接しておきますと、早くから専門分野にタコツボ化してしまう最近の学問や研究教育の弊害を防ぐことができるでしょうし、図書館にある資料を余すことなく活用する術を学ぶことができます。豊かな蓄積と大きな可能性を秘めた図書館を最大限に活用するのは、非常にもったいないことです。

日本の学術出版、アメリカの学術出版

——最近の日本の学術出版について、何か感じることはございますか？

日本の出版物を隈なく見ているわけではありませんので

直感的な印象になってしまいましたが、昔は、岩波書店や東京大学出版会など良い版元のものであれば、まず間違いなく内容も優れているということであって安心して購入することができました。一流の出版社は、編集者のスクリーニングもしっかりしていたことの表れかもしれません。しかし、最近、その安定感は少しずつ崩れ、良書の比率が少しずつ下がってきているように感じるときがあります。読者の志向変化に対する、過渡期現象とでもいうのでしょうか。

また、アメリカで博士号を取得した論文を日本語で出版しようとする場合、著者が日本では無名ということ、大手の出版社からは出版を断られ、個人でやっているような小さな出版社から刊行されるといったケースがあります。これは論文の内容以前のところでは判断されてしまっており、如何なものかと思ふときがあります。

——日本の大学出版部について、何か感じることはございますか？

アメリカの各大学出版部は、自分の大学とは切り離して考えているところがありますが、日本の大学出版部はこの点やや違うという印象を抱いております。日本の大学出版部は、大学の補助機関的な存在になっていっていると思うのです。下請け的組織ですね。アメリカでは、編集者が目を光らせて、自分の大学に関係なく全米から原稿を集めてこようと

します。Universityの根幹にあるUniversalの考えが入っているのです。

また、若い研究者を発掘し育てるという意識が、アメリカの大学出版部上層部には強いのですが、日本はやや負けているような気がします。ちなみにアメリカの場合、若い研究者がモノグラフを出版するというのは、大変なことです。彼らは、ポスト・ドクターなどの身分でハーバード大学など一流大学に行き、出版に向けて論文の修正に励みます。そこでは一応生活も保障されます。うまくいけばハーバード大学出版局から、それがダメならプリンストン大学やシカゴ大学の出版部から、それもダメなら例えば日本研究ならばハワイ大学出版部から、という具合に野心を秘め、磨きかけた論文を持って大学出版部にアタックするので、彼らは職を得るために、業績発表の絶好の機会である出版に全力を注ぎます。一流の大学出版部からモノグラフを出版できるというのは、いわば学知の特権階級に加入するようなものですから、それをめぐる競争は熾烈です。アメリカって凄いですよ。

アメリカ社会を生きる

——ということ、アメリカ社会は堅固なヒエラルヒーというよりは、公平な実力主義なのでしょうね。

そうありがたいのですが、現実は違います。アメリカは日

本以上に揺るぎがたいヒエラルヒーが存在している代表的な国です。ただアメリカは、見せかけが上手ですので、例えば誰でも大統領になれるかのようなイメージを作り上げ、周りを信じ込ませてしまう力があります。しかし実際は、こちらではよく、ガラスの天井と言われるのですが、天井が見えるのでそれを目指して上に昇ろうとするもの何故か遮るものが邪魔をして昇ることができない。出自・学歴・経歴が決定的な影響力を持つ社会なのです。

——そのようななかで奥泉さんがアメリカで長く活躍されてきた、その秘訣といったものは何かあるのでしょうか？

アメリカでは本場にいろいろなことが起こりましたが、全くのよそ者である私を理解し、助けてくれるアメリカ人がいたということだと思います。上司にもアシスタントにも、それにこの図書館の利用者にも、恵まれてきた半生です。その点は感謝しております。

よく判りませんが、秘訣らしきものは、家族があつたこと、戦後の貧しい時代に「アメリカ式図書館学」を学んだこと、これに尽きるでしょう。若い頃は、学校で教わったことくらい役立たないものはないと思っておりましたが、いま振り返ってみますと、無駄ではなかったのですね。無駄の効用に気付かされた思いです。

——最後に、今後の夢や展望をお聞かせください。

いままでの生活スタイルを変えることなく、司書としての仕事を続けながら、研究・執筆を進めていきたいと思っております。教授をはじめとして専門職に就いている者は、大学から必要ないと言われてしまえば翌日にでも辞めなくてはなりません、逆に言えば、必要とされている限り、いつまでも働くことができます。いわゆる日本の「定年退職」というものがないのです。現在の生活スタイルを維持するためにも、まずは健康に気を付けて、ライブラリアンとして日本研究関係の蔵書構築（和書・洋書）の充実を図りながら、自分の研究・執筆を前進させていきたいと思っています。

(二〇〇六年八月一五日)

書評は語る

——新聞の現場から

鶴飼

哲夫

(読売新聞東京本社文化部長)

新聞に原稿を書くときは、できるだけ多くの人から情報
を入手し、そうして得られたことを迅速に、わかりやすく、
正確に伝えるよう心がけている。記者となつてから20年以
上もたつと、これはもう人生の習慣になつてしまふ。

新聞記者だつたら、どこの社であろうと同じことだ。先
日、出版された朝日新聞編集局長の外岡秀俊さんの著作「情
報のさばき方」(朝日新書)の中でも、先輩記者から聞い
たという、いかにも同業者らしい逸話が引用されていた。
いわく、つまらない原稿を書くとき「一行ごとに数万人の読
者が離れていく」。胸にこたえる言葉であつた。現実には、
一行書くごとに「ああ、5万人減つた」とか「ここはうま
く書けたから3万人増えた」などと一喜一憂しては、
とても原稿に集中できない。ゆえに、作家の井上ひさしさ
んの「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深い
ことを愉快に、愉快なことを真面目に書くこと」という言
葉を心に刻み、原稿に向かうようにしている。

難しいことも、できるだけ多くの人に伝わるよう、やさ
しく表現したい。ただ、やさしくするあまりに単純化した
紋切り型の表現にしてしまい、読者に誤解を与えるよう
では困る。「やさしいことを深く」表現したいものだ。「愉快
に」というのは、ユーモアを大切にされる井上さん一流の精
神である。悲惨な出来事や科学的なことを書くとうする場
合には、「愉快に」というわけにはいかぬこともあるが、「愉
快に」という言葉に象徴されるユーモアの根底には、自分
を突き放して笑い飛ばすこと、つまり自己批評の厳しさが
ある。書いていることが独りよがりになつてはいないか、
内省しつつ、真面目に書きたいものだ。もちろん、口でい
うのは簡単。やつてみるのは大変で、日々反省の繰り返し
ではあるが…。

だから、今回の「読売新聞の読書面担当責任者として、
どのように本を選び、書評の紙面をつくっているか」とい
う注文にも、普段どおりに書けばよいとは思うのだが、ど

うも読者の顔がちらつてしまひ、勝手が違う。なんといつても大学出版のPR誌である。当然、大学の研究者や教員、大学出版の編集者の顔や書店員の顔が浮かぶ。これが、よくない。大学や出版の関係者、書店員には、読売新聞の読者は相対的に少ないからである。先日大型書店のジュンク堂池袋本店の副店長である田口久美子さんの「書店繁盛記」（ポプラ社）を読みながら、そのことを実感した。ちよつと引用します。

（私は毎日新聞の購読者という少数派なのだ。ちなみに何年か前に読売新聞社から、ジュンク堂社員（契約社員、アルバイトをのぞくので二十人弱）で読売新聞の購読者に「新聞へのご意見を賜りたい」と依頼されたとき、私ともう二人（日経新聞・東京新聞）を除く全員が朝日新聞の購読者であることが分かつて愕然としたことがあつた。彼等は一様に「朝日の書評をチェックしていて」と答えた）

田口さんは「愕然とした」というが、こちらは愕然の二乗である。確かに「朝日・岩波文化人」という言葉があつたように、朝日新聞のロゴにはなんとなく文化の香り漂うし、書籍広告は充実しているから、よく参考にする。広告という書評に比べて軽く見る人もいるが、私は反対です。本の帯や広告には、この本を読んでほしいという出版社の思いのたけのつかつているから、本探しでは大切な情報なんです。

それにしても読売がゼロとは。だから、この原稿、なん

だか敵陣に攻め込むような感じで書きづらひ。

前置きが長くなつてしまつたが、ここまで書いたところで、どのように本を探して書評しているかの説明は、大方終わつてしまつたことに気がついた。そんなバカな！と思われるかもしれないが、終わつているのである。あとは、残りの行数で、一日二百冊以上が出版される出版洪水の時代に、どのように本を選び、書評しているか、具体例を交えて簡潔にお伝えしたい。

まず、新聞の書評というのは学術誌など専門誌の書評とは違い、不特定多数の圧倒的に多くの読者を対象に、本の面白さを幅広く伝える役割が強い。ですから、できるだけ多くの人の意見を参考にして本探しをしている。そのため、担当の文化部記者が、文芸、論壇、美術、音楽、歴史など専門の担当の知識や情報網を活かし、編集者など出版関係者や著者等に、新刊情報を取材している。そして、長年、記者生活をしていると、本づくりの名人、本読みの名人という人が、なんとなくわかつてくるものなんです。記者には、それぞれの担当分野があるとはいへ、基本は素人。専門家ではない。そういう種族に大切なのは、それぞれの専門知識に詳しい人は誰か、という情報を把握していることです。だからこそ、名人たちとのネットワークは大切にしつつ、新たな名人探しも怠らないようにしています。

これに加えて読売新聞では、二週間に一回、東京・大手町にある東京本社の会議室で読書委員会を開き、本選びを

している。これも本に関する情報や知見をできる限り幅広く知るためだ。委員会のメンバーは二十人で、作家の川上弘美さんから文芸評論家の川村二郎さん、国立西洋美術館館長の青柳正規さん、大学教授や財界人、ノンフィクションライター、女優の小泉今日子さんまで多彩である。ちなみに、読書委員は今が旬という人が多いのは自慢です。この二年間で、角田光代さんが直木賞、町田康さんは谷崎潤一郎賞、脳科学者の茂木健一郎さんは小林秀雄賞、慶應義塾大学教授の清家篤さんは日経・図書文化賞、東大助教授の野崎敏さんは講談社エッセイ賞、東大教授の荻部直さんはサントリー学芸賞と、委員の著作の賞ラッシュが続いている。読書委員をお願いするに当たっては、その人の専門性も重視しているが、「この人の書評を読みたい！」という担当記者の熱意もかなり重視している。受賞によって、書評子の書評にさらなる関心が集まり、ひいては本好きが増えたとすれば、これほどうれしいことはない。

さて、その委員会の進め方は、まず読書面担当の記者が粗選びした本と読書委員から推薦のあった本をリストとともに会場に並べ、委員全員に「これは！」という本を選んでもらい、二時間ほどかけて回し読みしてもらおう。その後、一時間半ほどかけて一冊一冊、書評に値するかどうかが自由討議する。そのうえで毎週、十本の書評を日曜朝刊の読書面に掲載している。

新聞社によって書評本の選び方はさまざまだが、読売の

ように委員が直接に顔をそろえ、討議したうえで書評本を決めている社はない。朝日新聞も集まる方式だが、基本的には、やりたい本に○をつけた委員が自動的に書評者となり、あまり討議はしないと聞いている。ほかの社は、委員が推薦する本を自由に書評する形式や、新聞社の編集部が本と評者を選ぶなどの方式でやっている。読売ではなぜ、委員に集まっていたかどうかといえば、直接、顔を合わせた方が討議に熱が入るし、専門分野や感性の異なる委員の情報や意見が会場で飛び交うので、出席者一同、参考になること大だからだ。

委員会のルールは、公正さを保つため、読書委員の本は取り上げない、同じ著者の本は原則一年に一冊しか取り上げない、など単純だ。このほか、新聞は一般の読者を基本的に対象にするので、一万円を超えるような高価な本やあまりにも学術的な書籍については書評しないという暗黙のルールもある。ただ、このルールの適用はケース・バイ・ケース。確かに高価本や高度な学術本というのは出版部数が少なく、実際に買う人も多くはないだろうが、その内容に優れた知見があり、ニュース性がある場合には、紹介に努めている。そして、委員には、その本のもつすごさ、面白さを簡潔に、煎じ詰めれば「難しいことを、やさしく、深く」書いていただくようお願いしている。そうすれば、仮に読者が読まなくても、いまの世界で、どのようなことが研究され、どのような思考が行われているか、つまり、

いまの知の世界のニュースが伝わるからである。読書面というと、本に関心のない人は無関係とばかりに飛ばし読みする人もいるようだが、読書面とて、新聞の紙面である。ニュース性は大切にしているのです。

また、委員の任期は原則二年とし、紙面が硬直化しないようにするとともに、委員会では落ちた本についても文化部の記者で構成する事務局で再検討し、ジャーナリストティックな眼から見て、とりあげたいという書籍については、「記者が選ぶ」という書評コーナーで紹介している。

このように多くの情報、意見を参考にしながらつくっている読書面だが、読者からは「難しい本の書評が多くて、読みたい本が少ない」というお叱りを受けることが少なくない。一方で、「専門書の書評が少ない」という正反対の意見もいただく。新聞で書評する以上、多くの人に本に関心をもってもらいたい。だから、具体的な叱咤激励はありがたいし、より読者の声が届く開かれた紙面にしようとして、投書や意見をメールやファックスで募集している。

昨年からは読書面に、読者からの本に関するよろず相談に作家や評論家、学者らが答える「本のソムリエ」というコーナーを新設したり、海外で話題になっている未邦訳本をいち早く紹介する「フォーリンブックス」欄をこの夏つくるなど紙面刷新もしている。

こうした紙面づくりをどう評価するかは読者の判断だが、新聞には譲れない一線がある。その一つが、あまりわ

かったふりはしないことである。もちろん、世の中には、かなり高度な科学的な研究や理論があり、ちよつとやそつとの努力ではわからないことが多い。しかも、こうした高度な問題は、世界の将来を左右する重大なテーマであることも多いのだが、重大な問題であればこそ、一知半解であることは危険である。まして、執筆者が権威だからといって、その考えに追随することはジャーナリズムの死につながる。もちろん、わかろうとする努力がまずは大切だが……。

こんなことを書くのも、同じジャーナリズムとして、大学出版の方々に一言、もの申したいことがあるからだ。最近の大学出版の本は装丁や帯にも工夫が目立ち、伝統ある出版社の書籍とは見た目はまったく変わらない、手にとりやすく、編集者の「この本を伝えたい」という熱情を感じる、いわゆる体重の乗った本が増えている。しかし、中には、執筆者のひとりよがりな表現が目立ち、伝え手としての編集者の関わりが感じられない本もある。最近では、名古屋大学出版会のように、編集者の顔が見える本造りをしているところも出てきただけに、粗っぽい本造りは、かえって目立つ。書評の充実には、出版される本の充実も不可欠なんです。

とはいえ、優れた本を見落とし、後で地団駄を踏むことが多く、反省の多き日々である。ただ、記者に出来ることは限られている。いい本を見つけるために、できうる限り、目と耳、足を使うことである。

大学アーカイヴズと学術コミュニケーション

—— 京都大学図書館から考える

西山 伸

(京都大学文学部助教授)

発展する大学アーカイヴズ

本稿の表題に使用した「アーカイヴズ」という語は、近年テレビ番組やウェブ上で目にするものが多くなってきたが、それだけに一種の濫用が目立つようになってきている。アーカイヴズとは ICA (国際図書館評議会) の定義によれば「個人または組織がその活動のなかで作成または収受し、蓄積した資料で、継続的に利用する価値があるので保存されたもの。記録史料」となっている。またそういった資料を保存し閲覧利用に供する施設を指すこともあり、本稿では主として施設を指す語として用いている。アーカイヴズの設置主体は、国、地方公共団体、企業、宗教団体、個人等様々なものが考えられるが、本稿で述べる大学アーカイヴズもその一つである。

日本における大学アーカイヴズは、大学沿革史の刊行と密接に関連して設置されてきた。大学沿革史自体の歴史を論ずる余裕は本稿にはないが、東北大学記念資料室(一九

六三年)を嚆矢として、慶應義塾福澤研究センター(一九八三年)、東京大学史史料室(一九八七年)、九州大学史料室(一九九二年)、早稲田大学史資料センター(一九九八年)等、大規模大学を中心に設置された大学アーカイヴズは、それぞれの大学における沿革史編纂で収集された資料を基盤としており、ここでは編纂後の資料整理に止まらず、自らの大学の歴史に関する調査研究や教育、展示等様々な活動が行われるようになった。このような動きの背景には、貴重な資料を数多く利用して学術的批判にも堪えうるような本格的な大学沿革史が刊行されるようになった事情があることは間違いない。

さらにここ数年、大学アーカイヴズ、特に国立大学のアーカイヴズには新たな機能が加わってきた。それは二〇〇一年四月に施行されたいわゆる情報公開法を契機としている。同法は、言うまでもなく国民に対する国の機関の情報開示を求めたものであるが、その前提として各機関に行政

文書の厳密な管理を義務づけている。ところで、情報公開法が対象としているのは、行政文書ごとに定められた保存期間内の文書（「現用文書」という）であるが、では保存期間の過ぎた文書（「非現用文書」という）はどうなるのか。放っておけば捨てられてしまうことになるこれらの文書を歴史的資料として保存・公開する「受け皿」が必要ではないか、という議論が一部の大学で起こってきた。筆者の属する京都大学図書館（二〇〇〇年）、広島大学図書館（二〇〇四年）、名古屋大学大学文書資料室（二〇〇四年）などは、保存期間の過ぎた行政文書（国立大学法人化以後は「法人文書」と呼ぶ）の移管を大学の各事務部署から受け、それらを整理し、一般に公開することを重要な役割と位置づけて設置された機関である。文書の作成・収受から現用として事務で使用され、やがて非現用となっていく文書の流れを「文書のライフサイクル」と称することがあるが、その中で言えば大学アーカイヴズは終着点にあたるわけである。したがって、これらの大学アーカイヴズでは、大学史の研究教育等に加えて、広い意味での情報公開や非現用文書の管理の一元化によって事務の効率化に貢献し、場合によっては現用も含めた大学の文書管理全般に有益な活動を行ったり、さらに踏み込んで大学のシンクタンク的な機能も果たすことが目指されるようになってきた。

京都大学大学図書館の試み

このような大学アーカイヴズの流れに位置する京都大学大学図書館では、以下に紹介するような業務を行っている。まず、最も核となる業務は京都大学の歴史に関わる資料の収集・整理・保存・公開である。ここでいう資料とは具体的に①非現用法人文書を中心とした京大の組織運営のための資料、②京大が自らの組織紹介等のために出している刊行物、③卒業生や元教職員等が所蔵している京大に関する個人的な資料、を主に指している。言い換えれば「現在に至る大学の機関としての営みを示す資料」であり、例えば研究教育に利用するための古文書や標本の類などは、資料そのものが京大の歴史と関係なければ収集等の対象とはしていない。この点が、図書や貴重資料を扱う図書館、あるいは学術標本や研究成果物を展示する博物館と異なる点である。そのような資料を収集し、目録を作成し、適切な保存状態で管理し、個人情報に留意した上で一般に公開していくことが根幹の業務になる。また、限られた収納スペースの中でどういった資料を残していくか、逆に言えばどの資料を廃棄するか決定することも関連する業務の一つである。資料の評価・選別は、歴史学の観点からすると「邪道」とも言えることであるが、アーカイヴズの立場からだと、京大の歴史の何を後世に伝えるか判断する意味を持つ本質的な業務の一つと位置づけられる。

右の他には、調査・研究も業務として挙げられ、その成

果は毎年発行している研究紀要に反映させている。内容としては大きくアーカイヴズ論と京大を中心とした高等教育史の二つに分けることができ、現在前者では資料の評価・選別についての研究会を継続的に開催しており、後者では昨年京大における「学徒出陣」について数値データと聞き取り記録をまとめて報告書を作成した。学生に対する教育面では、文書館が所蔵している資料を使いながら京都大学の歴史の講義を行っている。この、学生に対する自らの大学史の講義（「自校史教育」と呼ばれる場合もある）は、近年少なくとも京大で実施されるようになってきている。概して受講生の評判はよいようだが、徒に愛校心をかき立てたり、単なる大学の宣伝に終わらぬよう、努めていく必要がある。なお、京大では、学生だけでなく新採用職員に対しても京大の歴史についての講義を行っている。

京大の大学文書館では、展示も重要な業務になっている。大学創立百周年を記念してリニューアルされた時計台記念館の一階に歴史展示室が設けられ、常設展「京都大学の歴史」と企画展を開催している。時計台記念館全体の利用が活発であることもあり、展示には年間四万人近い入場者がある。その他、京都大学の歴史に関する様々な問い合わせに答えたり、オープンキャンパス、ホームカミングデーといった大学の行事に参加したり、京大が交流協定を結んでいる海外の大学の学生に京大の歴史を講義したり、いわば歴史的な面における大学の広報的業務が増加しているのが

現状である。

大学アーカイヴズの未来

一方、他大学でも個性的な活動を行っているアーカイヴズが現れてきている。広島大学文書館では、「平和」「地域」といったテーマのもとに戦略的な資料収集を行ったり、公開講座を開催している。明治大学では私学としての特徴を生かして創立者や校友、さらにそれらと関わる地域の調査にも重点を置いている。また、名古屋大学文書資料室では、非現用法人文書から一步踏みだして半現用・現用の法人文書までの切れ目のない管理体制の一翼を担う方向を打ち出している。このように、それぞれの大学においてアーカイヴズは欠かすことのできない位置を獲得しつつあるように見える。

これまで紹介してきたことから分かるように、大学アーカイヴズはそれぞれの所属する大学の歴史に関する貴重な資料を数多く保存している。それらは、京大のように組織運営の最も基本的な資料である非現用法人文書を中心としているところもあれば、大学創立時の建学の精神に関わる文書である場合もある。また、学術研究の成果や学生生活の様子を示す資料である場合もあり多彩である。近年、図書や学術資料・博物館資料といった大学が所有する知的財産の公開と活用が望まれているが、大学史資料もその代表

格であろう。そして、日本の近現代史において大学が果たした役割を鑑みれば、これらの資料は特定の大学のみに関わるものではなく、教育史、文化史、社会史、政治史等に深く関わってくるものと言える。こうした「知の生産母体」である大学の資料を様々な形で世に問うていくことは、これからますます求められていくことであろう。われわれのネットワークが、アーカイヴズという「同業者」だけでなく、もっと広範囲になつていくことを願ってやまない。

大学との連携協力の在り方について——大阪大学出版会の試み

岩谷 美也子 (大阪大学出版会編集長)

大阪大学出版会は一九九三年に財団法人大阪大学後援会の一事業部として設立され、今年で一五年目を迎える。大阪大学が国立大学法人化や大阪外国語大学との統合などによりダイナミックな改革を推進しつつある現在、当会が大学や社会のニーズを的確に把握し、出版を通じて大学の文化活動の柱として貢献するためには、大学との連携協力体制はいかにあるべきか。年間刊行点数二〇〇点程度の大学規模に比してあまりにも小規模な当会の取り組みは緒についたばかりであるが、ケーススタディの一事例として紹介し、関係諸氏のご指導を仰ぎたい。

(1) 企画面での連携

出版企画は、編集者が人的なつながりを生かしつつ、相互の連携のなかで企画を考え、具体化してゆくのが本来の姿である。そのためには出版部と研究者が日常的に接触し、対話する場が必要であり、「分野」ごとにしかるべき担当者が

対応するのが理想である。しかし一〇学部一五研究科をはじめとする多様な教育・研究組織を擁する総合大学に相応しい良書の企画を模索するには、小さな出版部では自ずと限界がある。そこで、大学の協力を得て組織的に計画的・体系的な企画の掘り起こしを行うため、昨年、大学の先生方を構成員とする二つの組織が設置された。

教養書企画WG

教科書出版は、大学の教育活動への貢献となるのみならず、財政基盤の安定にも大いに資する。そこで大学の教育情報室に「大阪大学教養書企画WG」を設置し、「大阪大学が擁する多彩な分野の研究者のなかから、大阪大学や他大学の教養教育や専門教育向け、あるいは一般読書界向けの質の高い教科書や教養書の執筆者を発掘し、そのような執筆者による教養書を体系的に大阪大学出版会から刊行することによって、大阪大学出版会の事業を支援し、大阪大

学の教育の充実をはかること」となった。メンバーは教育・情報室室員、大学教育実践センター長をはじめ教育・情報室長が指名した各分野の教育情報に精通した教授八人から構成される。本年度はすでに三回企画会議が開催され、大学統合に伴う機構やカリキュラムの再編成を踏まえた意欲的な企画が多数採択されている。

また、本WGでは、現行の教科書シリーズ「大阪大学新世紀レクチャー」（平成一五年創刊）のなかに、教養書として人気を博した書目もあったことから、総合大学発信の教養書として相応しい「社会、歴史、文学、科学などについて、基礎的知識と豊かな教養を提供し、世界と人間の見方を鍛える」、「これまでの学問の区分にとらわれず、現代文明が要請するさまざまな重要テーマに取り組む」ことを特徴とする新たなシリーズ「阪大リール（HANDAI Live）」を創刊することが決定され、今春の第一回配本に向け、準備を進めているところである。

出版企画部

当会では、三年計画で編集部門の強化を中心とした組織の拡充整備を実施している。これにより、編集者が情報を収集し、研究者との対話の中で学術書の出版企画を練るといったケースも増えつつある。同時に、当会の編集企画部門と大学の研究者が意見交換しつつ、出版事業の基本構想や具体的企画を立案する機動的な組織として、当会会長のも

とに「出版企画部」が設置された。メンバーは会長および会長が指名した学内の教授の八人で、公的資金による各種プログラムやeラーニングなどの大学の事業展開も踏まえ、た有益な提言をいただいている。

(2) 管理運営面での連携

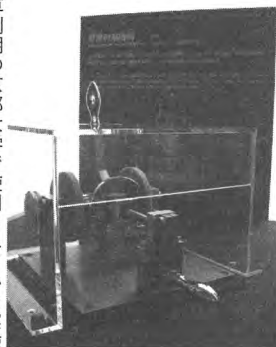
当会は当然独立採算を基本としているが、安定した事業を継続するためには、独立採算制をただ消極的に維持するだけでなく、積極的に事業展開して収益を上げていく必要がある、事業規模の拡大や事業計画に相応した組織の基盤整備が不可欠である。当会は、大阪大学総長を常務理事とする財団法人大阪大学後援会の組織であることから、このような管理・運営面での事業計画、将来構想について、大学運営の観点から指導・支援していただくため、後援会の事業計画策定委員会に当会担当委員がおかれた。また、同委員会が、財政面をふくむ出版事業全体の実質的な責任主体であることが確認されている。

以上のとおり、大学との連携協力のもと、大阪大学がモットーとする「地域に生き、世界に伸びる」教育研究活動の成果を広く発信するとともに、大阪大学が教育目標として掲げる「教養」「デザイン力」「国際性」を鍛える、多様な良書を出版しうる実力を備えた出版部を目指していきな

京都大学 総合博物館



マレーシアの熱帯雨林ランピルの森の一部と研究用の吊り橋を実物大で再現。



草創期の京都大学で使用されていた実験器具。触れて仕組みを知ることができる。

京都では現在、特色ある大学博物館が次々に設立され話題を集めている。京都市と京都精華大学の共同運営のもと、昭和初期の小学校校舎を生かして昨年一月にオープンしたばかりの「京都国際マンガミュージアム」や、二〇〇五年にリニューアルし、日清戦争からイラク戦争までを対象として戦争と平和の歩みを描く「立命館大学国際平和ミュージアム」などである。そのなかで「京都大学総合博物館」は「社会に開かれた大学の窓口」をめざし、「日本初の本格的ユニバーシティ・ミュージアム」（博物館パンフレットより）として一九九七年に発足し、この機運に先鞭をつけた大学博物館である。

写真上のランピルの森と実験器具は、常設展示の展示風景である。京都大学の研究成果と、その過程で収集された資料が、本博物館の収蔵品と展示の中心であり、文化史・自然史・技術史の三本柱に加えて「探検大学」と呼ばれた京大大学らしく、海外遠征関係資料のスペースが設けられている。

さらに毎年、春季・秋季の二度の企画展を定期的に、特別展を随時開催している。二〇〇七年前半は、特別展「京都大学所蔵 近代教育掛図展（仮）」（二月七日～三月十八日）と、春季企画展「地図の刷新！ 出版地図の400年（仮）」（四月四日～五月六日）を開催予定である。なお、訪問当日は、京都大学による「湯川秀樹・朝永振一郎博士 生誕百年記念事業」の一環として、平成一八年秋季企画展「湯川秀樹・朝永振一郎生誕百年記念展 素粒子の世界を拓く」が開催中で、多くの入場者を集めていた（京都大学学術出版会からも関連して学術選書『素粒子の世界を拓く・湯川秀樹・朝永振一郎の人と時代』を刊行している）。これらの展覧会も京都大学で行われた研究や所蔵資料を活用したものである。

さて、本博物館の課題について、今回の訪問で気づいたことを観覧者の立場からいくつか述べてみたい。「湯川・朝永生誕百年展」の会期中にはまだ翌二月・四月の特別展・企画展が広報されておらず、次回以降の展示情報が得られない。

所在地 〒606-8501 京都市左京区吉田本町（百万遍交差点を南下、左手に入り口あり。京大本部構内）
京都市バス「百万遍」下車（系統番号3、17、31、201、203、206）、徒歩約1分。あるいは京阪電車「出町柳」下車、徒歩約15分。

開館時間 9:30～16:30（入館は16:00まで）

休館日 月・火曜日（平日・祝日にかかわらず）、12月28日～1月4日

観覧料 一般400円、高校・大学生300円、小・中学生200円（20名以上は団体割引あり。70歳以上あるいは身体障害者手帳をお持ちの方は無料）

電話 075-753-3272 / FAX 075-753-3277

URL <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>



博物館ロビーで行われる「週末こども博物館」はリピーターが多い。

学外への窓口として格好のミュージアムショップや後述の「週末子ども博物館」の会場が有料エリア内にあるため、気軽にアクセスすることができない。『京都大学総合博物館年報 平成一七年度』には自己評価や今後の課題といった項目がなく、博物館の今後の活動方針が見えてこない、といった点である。そして、冒頭で述べた立命館大学や京都精華大学の、いかにも大学の「顔」が見える博物館運営に比べると、調査・研究といった内向きにはともかく、社会に対して本博物館が京都大学の窓口となっているとは言い難い。学外へ向けての大学の紹介という点では、学徒出陣についての調査・展示が話題となった学内の他部局「京都大学文学書館」の存在感がむしろ高い。

そういった状況下で博物館スタッフがとくに力を入れているのは、研究者による一般向け・子ども向け公開講座である。昨半夏には「夏休み学習教室」として望遠鏡での月観察、竹笛づくり、三葉虫を調べる、野菜からの紙づくりなど五日間で一二の子どもの向けプログラムが行われた。これらはつねに定員を上回る申し込みがある。そして、学内外の大学院生など有志によるサポートを得て、博物館ロビーで工作を楽しむ「週末子ども博物館」を毎週土日に開催している。このように、大学からの博物館の方向付けが今ひとつ見えないまま、現場の教官・スタッフの尽力によって対外的活動が行われていると言っているのではないのか。

総合大学の総合博物館という立場では一つの切り口に集中して特徴を打ち出すことは簡単ではないが、たとえば京都大学は戦争での焼失を免れているはずである。創期の実験器具など技術史部門の資料は高い歴史的価値を有しているはずである。そして二五〇万点を超える学術標本など豊富な収蔵品を生かし、名実ともに「社会に開かれた大学の窓口」として京都大学の顔として、今後の日本の大学博物館運営をリードするモデルとなることを期待している。

佐伯かおる（京都大学学術出版会）

大学出版部二ユース

総合図書目録

二〇〇七年版「有限責任中間法人大学出版部協会総合図書目録」が出来上がった。加盟三〇大学出版部の目録を一つの函に納めた合本目録であるが、約一二cmの厚さの目録はいつ見ても圧巻である。

総合図書目録は、全国の大学（短大）図書館、県立図書館、市立の主要図書館に送付され、蔵書調査の基本資料として役立てていただいている。その他に交流協定のある韓国・中国の大学出版部協会、また国内の販売会社各社や主要書店など約二〇〇〇件に送付される他、東京国際ブックフェアや協会の各種イベントにも展示されている。

最新書誌情報を掲載

総合図書目録は単なる合本目録ではない。図書館への最新情報の提供を目的とし、毎年一月〜二月までの加盟出版部の新刊・絶版を含めた最新情報が掲載されている。

「電子検索があたりまえの時代に、こんな分厚い紙媒体に意味があるのか」と

いう疑問も寄せられるが、職場の私のデスクには一年中「鎮座ましまして」頂いている。重量があつて傾くことのない総合図書目録の上には、メモ用紙や書類が乗り、普段は物置状態であるが、この総合図書目録、三〇大学出版部の最新書誌情報が掲載されているので、とっさの場合には電子検索よりも素早く対応できるメリットがあつて重宝している。

分類別刊行点数・本体価格合計一覧

そしてもう一つ、総合図書目録には「分類別刊行点数・本体価格合計一覧」という、加盟出版部の年間実績一覧が添付されている。各出版部の分野別刊行実績であるが、それに基づいて分野毎に刊行点数の最も多い出版部を上げると、以下のようになる。

- 0 「総記」京都大学学術出版会…二
- 一点、1 「哲学・心理・宗教」法政大学出版局…二五五点、2 「歴史・地理」東京大学出版会…二四四点、3 「社会科学」慶應義塾大学出版会…六六
- 点、4 「自然科学」東京大学出版会…

- 二三点、5 「工学・工業」東京電機大学出版局…二七七点、6 「産業」東京農業大学出版会…八〇点、7 「芸術」玉川大学出版部…一〇〇点、8 「言語」東京大学出版部…七七点、9 「文学」中央大学出版部…九点

大学出版部協会全体の二〇〇六年刊行点数は年間七九五点、本体価格合計が三三〇万円である（他にニューメディア商品一五五点）。出版業界全体の中で見ればまだまだ小さな数字であり、外部から見ればどことなく無色透明な印象を持たれがちな大学出版部も、しかしながら個々には集中と選択を試み、独自性を出していると言えるだろう。



北海道大学出版会

- ▼北海道立北方民族博物館編『環北太平洋の環境と文化』（A5判・五九八五円）
多様な文化的要素を含む北太平洋とその周辺地域に暮らす北方諸民族を対象に、個別の民族文化における環境適応の見事さや現代社会における文化変容の事例を紹介。それぞれの文化的関連性・共通性に対する理解を深めるための貴重な一冊。
- ▼小林快次・久保田克博著『モンゴル大恐竜―ゴビ砂漠の大型恐竜と鳥類の進化』（A4判・九五〇円）
モンゴル南部に広がるゴビ砂漠の大型恐竜を中心に、約八千万年前のモンゴルがどのような動物に支配され、どのような環境に生きていたのかを、多数の図版とともに紹介。恐竜から鳥類への進化を分かり易く解説。
- ▼新谷融・黒木幹男編著『流域学事典―人間による川と大地の変貌』（B5判・六三〇〇円）
流域の変動をその基本的な仕組みから説き起こし、水源、上流の山地から河谷、平野を経て海岸まで、人間活動とのかかわりを、多数の図版や写真を用いて体系的かつ簡潔に叙述した流域事典。技術者および行政関係者にとって必携の書。

東北大学出版会

- ▼麻柄啓一編集代表『学習者の誤つた知識をどう修正するか』（A5判、三三七頁、三三六〇円（税込））
学習者が誤つた知識を自分で作り上げている場合、通り一遍の授業ではそれは修正されない。ではどうすればよいのか。本書には、著者たちが行った一七の独創的な研究が五部構成でまとめられている。教育心理学にとって意義深い内容であるが、小学校〜高校教師の授業改善にも役立つであろう。
- ▼林屋礼二著『明治期民事裁判の近代化』（A5判、四七六頁、五二五〇円（税込））
明治以来の民事事件の判決書は、最近、廃棄寸前で無事保存されることになった。本書は、これらを使用して、明治期の日本の民事裁判がフランス法やドイツ法の影響を受けつつ、どのようにして近代化したかを実証的に分析する。文語調の判決文も全て現代語に訳し、判決などの資料もカラー図版で紹介している。また、当時の裁判統計を利用するとともに、裁判の原理も分かりやすく解説している。

流通経済大学出版会

- ▼松田 哲『人間関係とコミュニケーション―ギターと映像によるコンサートレクチャー第一ステージ―』
A5判・八八頁・一五〇〇円
- 人間関係は相手の出方しだいで決まるといいます。つまり相手から見ると、自分の出方しだいということですが、自分も、そして周りの人たちも大切にすることを考える。バランスのいい関係を築くヒントがここにあります。コンサートレクチャーは、音楽と映像そして語りにより、「人間関係」や「コミュニケーション」の大切さをわかりやすく伝える新しいスタイルの講演活動です。映像の合間にギター演奏によるオリジナルの歌をとり入れることにより、テーマをより効果的に伝えます。



講演風景

聖学院大学出版会

▼津村春英著『ヨハネの手紙Ⅰ』の研究——聖書本文の帰納的研究』（A5判 上製 二四八頁 四二〇〇円）

新約聖書のひとつの文書である「ヨハネの手紙Ⅰ」は小さな書簡であるが、「神の愛」「永遠の生命」などキリスト教信仰の根幹に関わる思想を表明しているものとして長く重要な文書とされてきた。

著者は、近年の聖書批評的研究に対して、先入見を排して、ヨハネの手紙を翻訳することからはじめ、丹念に読み解き、この書簡が書かれた背景、表現の特徴などから、ヨハネの神学を説明する。特に、「イエスの受肉を否定する」論敵の主張に対するヨハネの反論などを詳細に論じ、読者であるヨハネ共同体がその時代においていかに重要な使信として受けとめたかを明らかにしている。

本書は、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所における博士学位取得論文であるが、博士論文時には収められなかった著者の私訳を収録し、また事項、人名、聖書索引を付したものである。著者は大阪キリスト教短期大学教授。

聖徳大学出版会

▼近刊
『まごころとスポーツ』（永島正紀著）

スポーツの隆盛は、現代の特徴の一つです。スポーツに対する関心は性、年齢、障害を問わず高く、家庭でも学校でも職場でもスポーツが話題にのぼらない日はありません。「スポーツは心身の健康によい」と信じられてきました。本当にそうでしょうか。

スポーツは諸刃の剣です。スポーツとの取り組み方によっては、ころころにプラスになりますが、ころころにひずみがおこることもあります。とくに将来のある発育期の子どものスポーツ活動には注意が必要ですよ。

身体活動が不安や抑うつを軽減することや、認知力を改善することが分かってきました。スポーツがカウンセリングやメンタルトレーニングがアスリートのパフォーマンスの向上に有効であるといわれています。ころころとスポーツについて考えてみましょう。

▼既刊
『医における癒し』（森彪著 四六判 二一〇〇円）

麗澤大学出版会

▼大山正・丸山康則編『事例で学ぶヒューマンエラー——そのメカニズムと安全対策』（二九四〇円）多くの事例を取り上げなら、さまざまな状況におけるエラー発生メカニズムを明らかにし、防止法・対策を詳述。好評「ヒューマンエラー」シリーズの第3弾。

▼エリザベス・バード著／大藏雄之助訳『わが終わりにわが始めあり（上・下）』（各二五二〇円）ヨーロッパ最大の変革期・一六世紀。運命に抗い、愛と誇りと冒険に生き、断頭台に消えるまでの、スコットランド最後の女王メリー・ステュアートの波乱の生涯を描いた歴史小説。

▼多田顕著／永安幸正編集・解説『武士道の倫理——山鹿素行の場合』（四八三〇円）素行の思索と行動から彼の「武士道」——倫理体系——を解明する。



『事例で学ぶヒューマンエラーのメカニズムと対策』

慶應義塾大学出版会

- ▼現代東アジアと日本 第3巻 小此木政夫編『危機の朝鮮半島』(三五七〇円) 東アジアにおける日本の外交目標は、どうあるべきか? 激動する朝鮮半島情勢に地域研究と国際関係の両面から韓国を含む気鋭の専門家が迫る(全六巻、完結)。
- ▼青木節子著『日本の宇宙戦略』(二九四〇円)日本および世界の宇宙開発利用の最前線と法的側面を、国際法の専門家の著者が解説・分析した最新概説書。宇宙・通信ビジネス、安全保障問題への関心をもつ読者に必読の一冊。
- ▼小倉康嗣著『高齢化社会と日本人の生き方 岐路に立つ現代中年のライフストーリー』(五八八〇円)「団塊の世代」の生き方について、インタビュー調査のプロセスを記述しながら新しい生および社会のあり方を探る異色の社会学研究書。
- ▼泉三郎資料収集他『岩倉使節団の米欧回覧』(一八九〇〇円)名著『特命全権大使 米欧回覧実記』(久米邦武編著、現代語訳版は弊社刊行)にもとづき、千枚の静止画(当時の写真・絵画および現代の写真)とナレーションにより、当時の旅を再現(DVD二枚組・一六五分)。

ケンブリッジ大学出版局

- ▼The Economics of Climate Change, The Stern Review (ISBN 9780521700801, USD 50.00) スターン・レビューは、ニコラス・スターン博士が英国政府の委託により、世界で初めて、地球温暖化が世界経済へ与える影響をまとめた報告書。気候変動が世界経済に与える影響を評価、気候変動を最小限に抑えるために必要なコストを査定。本書はその報告書をフルカラーでまとめた。より科学的側面から気候変動の影響を評価するIPCC報告書(次期報告書は〇七年出版予定)と併せてお勧めしたい。
- ▼Reconstructing Macroeconomics) (ISBN 9780521831062, USD 75.00) マクロ経済学における世界的に著名な確率解読学者、青木正直氏の newly、吉川洋氏との共著。マクロ経済モデルは多数のミクロ単位や異なる性質の経済エージェントで構成されたものとし、それら異質的エージェント間の相互作用について確率論学的、組み合わせ論の側面から議論。青木氏は Modeling Aggregate Behavior and Fluctuations in Economics (ISBN 9780521606196, USD 34.99) において日経・経済図書文化賞を受賞。

産業能率大学出版部

- ▼日沖健著『新規事業戦略—トップダウン・アプローチで新規事業を創出する—』(二八九〇円)
- 新規事業が育っていない現状について、新規事業への意欲の喪失と強みに注目する日本企業の戦略スタイルに起因することを説明し、トップダウン・アプローチの確立を提唱する。
- ▼産業能率大学総合研究所独自化戦略研究プロジェクト編著『独自化戦略』(二六二五円)
- 独自化戦略とは差別化、高付加価値化、模倣障壁の手法を同時実行する戦略。競争優位と市場創造による事業の成長をはかるための具体的方策を個々の企業状況にあわせて具体的に解説する。
- ▼産業能率大学情報マネジメント学部ITコーディネータ高等教育研究所編著『ケースで学ぶ—ITコーディネータ・プロセス』(二九四〇円)
- 企業の戦略的情報化を効率的に推進できる「ITコーディネータ・プロセス」を事例を通してわかりやすく解説。経営にITを活用するための入門書。

専修大学出版局

▼西方守著『リットンの教育哲学』(三七八〇円)

戦前はナチスを批判し、戦後は東独の共産主義と対決したテオドール・リットンの思索の全貌と、弁証法的アプローチの解明を試みる。

▼渡邊一弘著『少年の刑事責任―年齢と刑事責任能力の視点から』(二九九〇円)

刑事責任年齢の意味や刑罰適応性評価が何の論拠に基づくかを解明。ローマ法やドイツの中世・近代、日本の近代前後史まで遡って体系化をはかる。

▼大石和男著『運動イメージと自律反応』(二五二〇円)

一流競技選手を調査・実験し、日反射の振幅や筋電図活動の計測を通じて、運動イメージを想起するときの自律反応とどのようなものかを探る。

▼森住信人著『未遂処罰の理論的構造』(三三六〇円)

未遂犯の処罰根拠論、不能犯論、実行の着手論との理論的關係を明確にし、従来の理論構成を有用なものとした上で、総合的な理論構築をはかる。

大正大学出版会

▼松濤誠達著『古代インドの宗教とシンボルズム』(A5判 七〇〇頁 定価一五五〇円) 著者の研究対象は、古代インドの聖典であるヴェーダ、マハーバータ、ラーマヤナ、各種プラーナ聖典に加え、初期仏教ならびにジャйна教にいたるまでの広範な典籍に及ぶ。インド学研究に構造的な手法を導入し、この方法により解明された古代インドの宗教文献に見られるシンボルズムについての論述は注目される。

本書は全六章からなり、第一・二章ではヴェーダ、マハーバータラ、プラーナ聖典の考察、第三章では、古代インドの宗教文献にみられる神話・伝説・説話について論述。第四章では、古代インドのシンボルズムに関して、その象徴の意味を解明する。第五・六章では、仏教一般・比較思想に関する論述。

▼近刊 藤原聖子監修『女性週刊誌が伝えた「アメリカの戦争」』(B5判 四〇〇頁 予価四二〇〇円)。ベトナム・湾岸・イラク等の戦争を女性週刊誌はどのように伝えたのかを掲載記事を中心に論述する。

玉川大学出版部

▼『増補改訂版 ペスタロッチー・フレール事典』日本ペスタロッチー・フレール学会編(A5判・二一〇〇〇円) 新規・改訂項目約一〇〇、新資料追補の待望の決定版。教育史上きわめて大きな足跡を残したペスタロッチーとフレールに関する総合的事典。

▼『フレール 生涯と活動』R・ボルト、W・アイヒラー／小笠原道雄訳(A5判・四二〇〇円) 世界で最初に幼稚園を開設し、幼児教育の発展に先駆的な役割を果たしたフレール。彼の生涯の活動を、豊富な写真と資料で概観する。

▼『他者のロゴスとパトス』三井善止編著(四六判・四四一〇円) 自分を明らかにしようとするれば、そこには必ず他者の存在がある。人間の本质や社会を考える上でキーとなる他者について、広範な領域から重層的に迫る。

▼『清和源氏十五段―義太夫浄瑠璃未翻刻作品集⑥』鳥越文蔵監修(A5判・二四一五円) 並木宗助・安田蛙文作。享保一二年、大坂豊竹座初演。頼朝と義経の対立は激化。双方が相手に抱く不信任感などを描く、無常の物語。

中央大学出版部

- ▼田中拓男著『開発論 こころの知性—社会開発と人間開発』（三〇四五円）世界の貧困削減問題を「心の知性」という新しいパラダイムから展開する。開発問題を人間存在の根源に掘り下げて開発の理念を呈示する。
- ▼藤本哲也著『犯罪学研究』（四四一〇円）英米等の最新の犯罪学の動向を中心に都市犯罪、民営刑務所、三振法、破れ窓理論についても紹介する。日本比較法研究所研究叢書71号。
- ▼平野晋著『アメリカ不法行為法—主要概念と学際法理』（五一四五円）主要概念の概説から製造物責任（PL）法に関する詳細な分析までを網羅する体系書。
- ▼田中廣滋・田中嘉成・薮田雅弘編『21世紀の環境と経済』（三三六〇円）各分野の第一線で活躍する論者による環境問題の具体的な政策提言。中央大学経済学部寄附講座シリーズの第2弾。
- ▼中野守編著『現代経済システムと公共政策』（四七二五円）福祉、金融、不動産市場、社会的規制、公共部門のあり方等から多角的に分析する。中央大学経済研究所研究叢書41号。

東京大学出版会

- ▼青木秀夫・風間洋一・佐野雅己・須藤靖編『UT Physics』物理学とはどのような学問なのか、そして最先端ではどのような研究が行われているのか—物理学に関する新シリーズに向けて、その魅力を紹介する新シリーズの刊行を昨年十月から開始した。東大のスタッフを中心とした、第一線で活躍する研究者による書き下ろしである。物理学は、知れば知るほどその奥深さがみえてくると同時に、さらなる知的興味が駆り立てられる学問である。この楽しみを、一人でも多くの読者に感じてもらえるようなシリーズにしていきたい。
- 1 須藤靖著『もの大きさ—自然の階層・宇宙の階層』
 - 2 橋本幸士著『Dブレイン—超弦理論の高次元物体が描く世界像』
 - 3 柴田大著『一般相対論の世界を描く—重力波と数値相対論』
- （1—3巻定価二五二〇円。以下続刊）



東京電機大学出版局

- ▼『マルチボデイナミクス基礎』（田島洋著／六一二〇円）本書はマルチボデイナミクスおよび機械力学の基礎をその主な内容としている。導入部より三次元を適用し、様々な運動方程式の立て方を通して運動学の基礎的事項、力学原理、運動方程式作成の実用的な方法などを解説した。
- この技術の適用対象はロボット、自動車、鉄道車両など可動部分を持つ機構（メカニズム）からスポーツ工学、福祉、医療の分野にも及んでいる。関連技術者にとって必読の一冊である。
- ▼『テキストマイニングを使う技術／作る技術』（那須川哲哉著／三一五〇円）期待したような結果を出せなかった「データの質が悪いのでテキストマイニングには適さない」といったテキストマイニングの利用者の声に対して、テキストマイニングの研究開発に従事し、数多くの適用事例に関与した経験から、テキストマイニングの本質的な役割と活用法およびその構成について解説している。大量のテキストデータの処理・活用に関心する研究者やビジネスマンに向けた一冊である。

東京農業大学出版会

▼代替農業の推進——環境と健康にやさしい農業を求めて 藤本彰三・松田藤四郎編著

新農法確立のための生物農薬など新素材開発の研究成果である。

平成一八年十二月/A5判

一八四頁/税込価格一六八〇円

▼森林情報学入門——森林情報の管理とITの活用 田中万里子著

本書はテキストとして森林情報学の概論として位置づけ、技術の基本的な考え方を理解し、将来の応用を考えることを目的としている。

平成一八年十二月/B5判

一三六頁/税込価格一四七〇円

▼賃労働理論の基本構造——賃労働の理論、歴史、現状 田中俊次著

賃労働論は、資本主義社会における賃労働を包括的に、かつ、相対的に独自に扱う学問であるが、その研究成果をまとめたもの。

平成十八年十二月/A5判

三五六頁/税込価格三九九〇円

法政大学出版局

▼『内藤正敏*民俗の発見』I~IV(四六判・全4巻・各巻三六七五円)が刊行開始。写真家・民俗学者として東北を拠点に日本の民俗と文化を照射しつつける著者の民俗論集成。民間信仰・民俗文化研究に独自の科学的視点を導入し、歴史の闇に閉ざされてきた民俗の深層に迫る。

I『東北の聖と賤』宮澤賢治と佐々木喜善/オシラサマ変容論/オシラ祭文源流考/東北竈神のコスモロジー/金牛と鰻神/金属鉱山の発光伝説/恐山・聖と俗のコスモス

II『鬼と修験のフオークロー』漫遊仙人一代記/岩木山の鬼と鉄/出羽三山の宇宙/鬼を神に変換する祭り鬼の神事に隠された『東北』/鬼の物語になつた古代東北侵略/飢餓の宗教・即身仏/修験道の空間思想/火と水の呪いのコスモス

III『江戸・王権のコスモロジー』近刊

IV『都市の中の異界』近刊



内藤正敏 民俗の発見 I

東北の聖と賤

武蔵野大学出版会

▼近刊『環境デザインの試行』(河津優司監修、風袋宏幸・水谷俊博編、新宮晋、宮城俊作、安田幸一、原広司、杉本貴志、長倉洋海、北川フラム、庄野泰子、海藤春樹、平出隆、たほりつこ共著 B5判変形、三三八頁予定、三九九〇円、二〇〇七年三月刊行予定)

環境の世紀といわれる二十一世紀に、デザインは何かでき、何をなすべきか? 時空をデザインする十一人がとらえた「環境」と、そこでのデザインの営みを語った講演をもとに編まれた本書は、環境の世紀に生きる多様な感性の集合である。本書の監修者・編者の三人は、武蔵野大学人間関係学部環境学科住環境専攻所属の教員で、研究室では主に建築分野から「環境」を見ているが、本書では建築に限らず、広く「人が環境においてデザインという行為を行う」こと全般を眺めまわす。著者達の環境観を「自然」「文化」「身体」の三群に分け、対峙、共生、共鳴、身体感覚、協働等々、さまざまなデザインの試行を取り上げる。

▼近刊・むさしの心の叢書シリーズ第一卷、二〇〇七年四月刊行予定。

武蔵野美術大学出版局

▼『テキスタイル 表現と技法』田中秀穂監修 A4判・一六八ページ。

テキスタイル全般を網羅した技法書だが、たんなる技法書ではない。創作の発想と、発想をデザイン化するための思考法とトレーニングを具体的に提示する。1章「テキスタイルの発想と展開」では、アート・空間・プロダクトなどと接点を持ち、暮らしそのものにコミュニケーションするテキスタイルの可能性を語る。

2章「染」、3章「織」では、染・織・織物理論・実習・プレゼンテーションの手法を紹介。4章「さまざまな技法」では、緋、ほぐし緋、オフルーム、綴れ織、もじり織、フェルト制作の技法をプロセスを追って紹介する。5章は色彩研究と、コンピュータを使ったテキスタイルデザインの考え方、テクニクを論じる。

約千点のカラー実例写真とともにテキスタイルのノウハウを学び、テキスタイルの面白さを十二分に味わい尽くす一冊。テキスタイル関連用語解説・テキスタイル素材ショップリスト付。二〇〇七年四月刊行。定価三四〇〇円

明星大学出版部

▼『初等教育原理』明星大学初等教育研究会編

「教育の考え方と歴史」「教育課程と教育実践」「子どもが発達」「学校制度と教育改革」「教師論」「生徒指導の課題」「家庭、地域社会、幼稚園・保育所における保育・教育」の7章の構成で叙述。A5判・定価二五二〇円

▼『教育方法の理論と実践』小川哲生・菱山覚一郎著

教育方法学の概念と歴史、基本原理を叙述し、授業展開の方法・技術を具体的に紹介する。教職の専門的能力・技術の向上を目指す。A5判・定価一六七五円

▼『教育行財政概説——現代公教育制度の構造と課題』樋口修資編著

学校教育をめぐる環境は大きく変容し、直面する課題は山積かつ複雑化している。新しい時代の学校教育に何が求められているか。公教育制度の成り立ちと基本的仕組みや構造、機能をわかりやすく概説しながら、教育行財政の今日的な在り方を提示する。A5判・定価二八三五円

早稲田大学出版部

▼『社会科学原論講義』（田村正勝、四五一五円）社会科学とはどんな学問か。アダム・スミス、ヘーゲル、マルクス、ケインズ等の思想を紹介して、社会科学の基礎から応用までを解説する。

▼『ジャーナリズムの方法』（コーディネーター・原剛、一八九〇円）ジャーナリズムはマスコミではない。調査報道や紛争地取材の実態を、現場の最前線から語る。鎌田慧のジャーナリスト論も収録する。石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座講義録第2巻。

▼『比較政治学の将来』（日本比較政治学会編、三一五〇円）比較政治学は現実の政治課題にどのように対応したらよいのか。従来からの主要な政治理論を再検討し、比較政治学の可能性を追求する。日本比較政治学会年報第8号



東海大学出版会

東海大学総合情報センターでは、全学生を対象に、基礎情報教育・情報関連資格取得支援・実践的コンテンツ制作などの副専攻カリキュラムを開講しており、年間一万名を超える受講生がITスキルの上を達成している。この教科書として「東海大学総合情報センター新情報教育プロジェクト」の刊行を開始する。四月までの刊行予定書目は次のとおり。

▼『社会知能システム入門―内閣支持率は予測できるか?』(二六八〇円)
テキストマイニング・重回帰分析・ニューラルネットワークを解説。

▼『モノヅクリノカタチ―企画・設計・制作プロセスの体験』(一五七五円)
マルチメディアコンテンツの制作に関する基礎的知識・技術を解説。

▼『ビジュアルデータアナリシス―問題の見える化』(一五七五円)
「問題の見える化」に焦点をあて、データ解析手法を学ぶ。

▼『ユビキタスコンピューティング』(二五七五円)
ユビキタス社会に関する種々の技術・制度・問題点・展望などを紹介。

名古屋大学出版会

▼前野みち子著『恋愛結婚の成立―近世ヨーロッパにおける女性観の変容―』(五八八〇円) 恋愛と結婚を接合するまなざしは、いかにして生まれたのか。

▼山口庸子著『踊る身体の詩学―モデルの舞踊表象―』(五四六〇円) 二〇世紀に芸術や運動の焦点となったダンス。文学との交点で宇宙論的な表象を読解。▼平川祐弘著『天八自ラ助クルモノヲ助ク―中村正直と『西国立志編』―』(三九九〇円) 近代日本を造った一冊の書物―『西国立志編』の巨大な影響を中村正直の人と業績を軸に比較の中で描く。

▼西村 稔著『福澤諭吉 国家理性と文明の道徳』(六三〇〇円) 巨大な知性の全体像を、国家・文明・道徳を軸に描き、「賢慮の人」としての福澤を定位する。

▼末廣 昭著『ファミリービジネス論―後発工業化の担い手―』(四八三〇円) 遅れた企業形態なのか。存続と発展、淘汰・生き残りの論理を示す画期的研究。

▼石崎宏矩著『サナギから蛾へ―カイコの脳ホルモンを究める―』(三三六〇円) 昆虫変態を司るホルモンの本体を解明した波瀾万丈の科学ドキュメント。

三重大学出版会

▼第四回日本修士論文賞、授賞式
今年応募、選考方式に修正を加え、ほぼ継続して開設の趣旨に合う受賞者を世に送り出すことが出来る賞となりました。

論文賞

▼中山淳雄(東京大学大学院人文社会系研究科) タイトル「ボランティア概念の誕生―すりかえられた記号―」 現職(株)リクルートスタッフフィング 市場開発部 企画営業課 指導教授 上野千鶴子氏

▼趙彦民(名古屋大学大学院国際開発研究科) タイトル「王道楽土の悪夢―満州愛国信濃村残留孤児達の家族史―」 現、国際開発研究科博士後期課程3年 指導教授、櫻井龍彦氏

表彰会場、総合研究棟2、第2会議室
時 間、一三時三〇分―一五時まで。

●『パブアニューギニア小説集』塚本晃久訳「夜明けの炎」「家出」「タリ」、四六版、二二〇頁、近刊。

京都大学学術出版会

▼『中国農業史』F・ブレイ著／古川久雄訳・解説（八〇〇頁・九〇〇〇円）「中国」と一言で表現するには、あまりに多様な地理的環境の下に形成発展してきた中国農業。その鳥瞰図を、中国、日本、ヨーロッパの膨大な文献を渉猟し、汎アジアの視野に立ちながら、世界に開かれた視野から描く。ジョセフ・ニーダム『中国の科学と文明』シリーズの一巻。

▼『平安京—京都 都市図と都市構造』

金田章裕編（二五〇頁・五八〇〇円）地図を読み解き、地図に描く——八世紀末の平安京建設以来、常に構造を変化させてきた歴史都市・京都。現代まで伝存する数多の京都図を読み解き、また豊富な史料を地図化してその都市構造と歴史的位置を浮き彫りにする。意欲的論集。

▼『保全鳥類学』山岸哲監修／山階鳥類研究所編（三七〇頁・三五〇〇円）「保全の対象となる単位とは？」「絶滅の危機を回避するには」「生態系や人間の活動との関係」など、鳥類の保全について多角的に迫る本書は、バードウォッチャーだけでなく、アセスメントや環境行政関係者など、多くの方に薦めたい。

大阪経済法科大学出版部

改訂版・再版の刊行予定とご案内

▼『債権総論 改訂版』西山井依子著

債権総論の基本的な知識と体系的な概念を、重要判例や解説をもとに理解する。今回、二〇〇四年の民法の現代語化や、旧版以降の判例の動向をふまえた改訂版。（四月刊行予定）

▼『債権各論 改訂版』西山井依子著

債権各論の基本的な知識と体系的な概念を、重要判例や解説をもとに理解する。『債権総論』同様、二〇〇四年の民法の現代語化や、旧版以降の判例の動向をふまえた改訂版。（九月刊行予定）

▼『現代社会と人権 第三版』村下博・山根共行編著 定価二六二五円／人権の

普遍性を学び、人権に関わる現代社会の問題の実態と課題を考える。女性と人権、人身売買と法、ホームレス問題を新たに

加え第三版として刊行。（〇六年五月刊）

▼『経済史へのアプローチ』（再版）

金哲雄著 定価二一〇〇円／近代資本主義における経済史学の理論や論点を、宗教と経済の関係や、移民の経済的役割などの視点を交え、新たな「経済史へのアプローチ」を試みる。（〇六年一月刊）

大阪大学出版会

▼侯野彰三、遠山正彌、塩坂貞夫編『新・行動と脳』A5判・並製・四三八頁 定価三一五〇円 日常生活の行動をみちびく

脳となりたちから疾患まで、行動学、心理学、生物学、医学の研究分野にわたって横断的にわかりやすく解説する。カラー口絵のほか図表も多く紹介。

▼大阪大学建築工学コース編著『ドミニク・ペロー Would you like to wrap it?』A5変型・並製・二二六頁（フルカラー）定価二一〇〇円 世界的建築家ドミニク・ペロー氏が来日して行った世界各地での最新のプロジェクトに関する講演を紹介するとともに、氏の指導のもとに実施されたワークショップの経過をDVD映像も付して解説する。



関西大学出版部

- ▼孝忠延夫／浅野宜之著『インドの憲法』(A5判・二九四〇円) インド憲法(二〇〇四年第九十二次改正まで)の全文和訳であり、その紹介を通して「国民国家」の将来像を模索し、二十一世紀における国民形成・国民統合について検討する。
- ▼入子文子著『アメリカの理想都市』(A5判・三六七五円) 理想都市とは何か。なぜアメリカはそれにかかわるのか。建築術・要塞・アメリカ建国など、小さな糸口から大きな主題を紡ぎ出す、著者独自のアメリカ精神史の方法を展開する。
- ▼今井弘著『地球四十六億年の進化―元素の生成からヒトの誕生まで―』(A5判・二八三五円) 地球の進化について、自然・人文・社会の各科学の立場から平易に解説。宇宙の創生から生命誕生の経緯について述べ、ヒトの誕生までの過程を広領域に記述したユニークな書である。



『地球四十六億年の進化―元素の生成からヒトの誕生まで―』
定価2835円

関西学院大学出版会

- 新刊
- ▼山本 栄一著
『問いかけの聖書と経済―経済と経済学を聖書によって読み解く』 関西学院大学研究叢書第一二二編 (A5並製・三〇〇頁・定価二九四〇円)
- ▼関根 孝道著
『南の島の自然破壊と現代環境訴訟―開発とアマミノクロウサギ・沖縄ジュゴン・ヤンバルクイナの未来』 関西学院大学研究叢書第一二二編 (B5並製・二五〇頁・定価三〇四五円)
- ▼関西学院大学災害復興制度研究所編
『RON《論》被災からの再生』 災害と法、お金等視点別に復興問題を論じる。(A5並製・二三四頁・定価二二一〇円)
- ▼関西学院大学COEプログラム
『先端社会研究 第五号』 特集▽災害復興制度の研究 (A5並製・三三〇頁・定価二九四〇円)
- ▼田中 彰一著
『気候変動と国内排出許可証取引制度』 温室効果ガス削減の為の本制度の特徴を分析 (A5並製・一三〇頁・定価一七八五円)

九州大学出版会

- ▼大谷順子著『事例研究の革新的方法―阪神大震災被災高齢者の五年と高齢化社会の未来像―』(A5判・三五二頁・五六七〇円) 仮設住宅・復興住宅での調査、マスコミ報道や公的報告書の分析により、被災高齢者の実態を解き明かす。
- ▼井口正俊・岩尾龍太郎編『都市を歩く―ローマから博多まで―』(A5判・三六〇頁・三一五〇円) 都市像の未来へ向けて、世界の、日本の、過去の、現在の様々な都市の魅力を探るガイドブック。
- ▼鳴海邦匡著『近世日本の地図と測量―村と「廻り検地」―』(B5判・二二〇頁・五〇四〇円) 測量帳や日記などの分析から、村役人や地方役人らによる地図づくりの実態を明らかにする。

都市を歩く

ローマから博多まで



井口正俊・岩尾龍太郎 編



有限責任中間法人 大学出版部協会賛助会員

【50音順】2007年1月31日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
垂細垂印刷株式会社	〒380-0804 長野県長野市大字三輪新屋1154
有限会社アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
株式会社大森印刷	〒105-0003 東京都港区西新橋3-17-1
岡本出版発送株式会社	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2
株式会社協栄アドインフォ	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-14 立花日英ビル2F
株式会社クイックス東京	〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-27-14 山京システムビル4F
港北出版印刷株式会社	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
三美印刷株式会社	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-4
三和印刷株式会社	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井字薬師寺1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
城島印刷有限会社	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
新日本印刷株式会社	〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3-29
株式会社鈴木製本所	〒112-0014 東京都文京区関口1-17-5
大同印刷株式会社	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-4 ダイニックビル7F
株式会社太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
土山印刷株式会社	〒601-8305 京都府京都市南区吉祥院宮ノ東町7
宗教法人天然寺	〒204-0021 東京都清瀬市元町1-4-5-711
東一紙業株式会社	〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-7
株式会社東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-11
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-9-5
株式会社博報堂	〒108-0023 東京都港区芝浦3-4-1 グランパークビル17F
株式会社平文社	〒170-0005 東京都豊島区大塚2-35-7
株式会社堀内印刷所	〒112-0013 東京都文京区音羽1-21-11
株式会社毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
株式会社遊文舎	〒532-0012 大阪府淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1

有限責任中間法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を発足いたしました。ここに趣旨にご賛同・お申し込みを頂きました各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

有限責任中間法人大学出版部協会 加盟出版部一覽

北海道大学出版会

060-0809 札幌市北区北9条西8丁目 北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

東北大学出版会

980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1 東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

流通経済大学出版会

301-8555 龍ヶ崎市 120
TEL 0297-64-0001 FAX 0297-64-0011

聖学院大学出版会

362-8585 上尾市戸崎 1-1
TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

聖徳大学出版会

271-8555 松戸市岩瀬 550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

麗澤大学出版会

277-8686 柏市光ヶ丘 2-1-1
TEL 04-7173-3331 FAX 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会

108-8346 港区三田 2-19-30
TEL 03-3451-6926 FAX 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局

101-0054 千代田区神田錦町 1-10-1 サクラビル1階
TEL Academic 03-3291-4068 / ELT 03-3295-5875 FAX 03-3219-7182

産業能率大学出版部

103-0028 中央区八重洲 1-3-19 辰沼建物ビル7階
TEL 03-5205-2255 FAX 03-5205-2470

専修大学出版局

101-0051 千代田区神田神保町 3-8 専修大学5号館6階
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

大正大学出版会

170-8470 豊島区西巢鴨 3-20-1
TEL 03-5394-3026 FAX 03-5394-3038

玉川大学出版部

194-8610 町田市玉川学園 6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

中央大学出版部

192-0393 八王子市東中野 742-1
TEL 0426-74-2351 FAX 0426-74-2354

東京大学出版会

113-8654 文京区本郷 7-3-1 東京大学構内
TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958

東京電機大学出版局

101-8457 千代田区神田錦町 2-2
TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

東京農業大学出版会

156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1
TEL 03-5477-2562 FAX 03-5477-2643

法政大学出版局

102-0073 千代田区九段北 3-2-7
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

武蔵野大学出版会

202-8585 西東京市新町 1-1-20 武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局

180-8566 武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

明星大学出版部

191-8506 日野市程久保 2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

早稲田大学出版部

169-0071 新宿区戸塚町 1-104-25
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

東海大学出版会

257-0003 秦野市南矢名 3-10-35 東海大学同窓会館内
TEL 0463-79-3921 FAX 0463-69-5087

名古屋大学出版会

464-0814 名古屋市千種区不老町 1 名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

三重大学出版会

514-8507 津市上浜町 1515 三重大学出版ホール内
TEL 059-232-1356 FAX 059-232-1356

京都大学学術出版会

606-8305 京都市左京区吉田河原町 15-9 京大会館内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部

581-8511 八尾市楽音寺 6-10
TEL 0729-41-8211 FAX 0729-41-9979

大阪大学出版会

565-0871 吹田市山田丘 1-1 大阪大学事務局内
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1614

関西大学出版部

564-8680 吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-1121 FAX 06-6389-5162

関西学院大学出版会

662-0891 西宮市上ヶ原1番町 1-155
TEL 0798-53-5233 (内線81002) FAX 0798-53-9592

九州大学出版会

812-0053 福岡市東区箱崎 7-1-146 九州大学構内
TEL 092-641-0515 FAX 092-641-0172